

学校法人日本体育会  
日本体育大学女子短期大学部  
機関別評価結果

平成23年3月24日  
財団法人短期大学基準協会

## 日本体育大学女子短期大学部 の概要

設置者	学校法人 日本体育会
理事長名	塔尾 武夫
学長名	谷釜 了正
ALO	坂井 元
開設年月日	昭和28年4月1日
所在地	東京都世田谷区深沢7-1-1

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
体育科		120
幼児教育保育科		50
	合計	170

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	保育専攻	50
	合計	50

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

日本体育大学女子短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 21 年 6 月 12 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は「體育富強之基（たいいくふきょうのもとい）」を建学の精神としている。その継承、発展のために、平成 17 年に、「真に豊かな国家・社会を実現するためには、体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を数多く育成することが肝要である」とその現代的な解釈を定めている。この教育理念は、体育科とともに幼児教育保育科にも貫かれている。

教育課程は、保健体育・スポーツと保育・幼児教育を専門とする職業や、実際の生活に必要な能力を育成する教育目的を反映したものになっている。授業内容、教育方法・評価方法はシラバスに明記され、履修方法についての指導もきめ細かく行われている。また、学生による授業評価アンケートを基に授業内容の工夫、教育方法、評価方法等の改善に努めている。

教員組織は短期大学設置基準を満たす人数が配置されている。校地面積は短期大学設置基準を上回る規模で、施設設備は体育教育を中心にした学びの場として十分な環境が整い活用されている。併設大学と共有の図書館は再開発によって十分な広さが確保され、蔵書、閲覧環境等は適切に整備されている。

単位修得状況はおおむね良好であり、単位修得指導がきめ細かく行われ、評価方法に工夫がみられる。同窓会、保護者会組織との連携の下、就職研修会が各都道府県で開催されている。オープンキャンパスや各種進学説明会、入学時のオリエンテーション、日常的な学修に関する相談・指導に応じるアカデミックアドバイザー制度の導入など、入学・教育・進路支援に対する学生支援体制は十分整備されている。また、キャンパス内の休息のための施設・空間、クラブごとの練習場や部室の設備などユニークな施設・設備も多く、学生の満足度を高めるように工夫されている。

教員の研究活動は、恵まれた研究環境の中で成果をあげている。研究成果の発表の機会が設けられているほか、各個人の研究活動が『教員総覧』で公開されている。研究日、研究費、研究旅費などの研究環境も整備されている。

社会的活動の方針として、「日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部地域・社

会貢献活動の基本方針」に基づき 10 項目を定めるとともに、地域・社会貢献推進委員会を設置して、5 年間の基本計画を策定するなど、全学的に教職員と学生が取り組んでいる。また、教職員の研究目的による海外出張や研修のほか、体育大学という特性上、国際大会への海外派遣が多い。

理事会は、管理運営に関する重要事項については評議員会の意見を聞き、教学に関する重要事項については教授会の審議結果を尊重した上で、審議決定を行っている。管理部門と教学部門との連携体制はほぼ確立されている。

財務運営は諸規程に従って、予算の決定、執行、出納業務などが適切に行われている。短期大学部門の収支バランスに課題があるが、学校法人全体の財務体質は健全である。施設設備の整備と管理は、施設設備等の管理に関する諸規程に基づいて適切に行われている。

自己点検・評価委員会が自己点検・評価活動の結果を報告書としてまとめ、全専任教員、事務局各課に配布し、情報の共有化を図っている。また、学生生活に関するまとめや年度ごとの学生による授業評価アンケートの集計結果についても冊子が作成され、教職員に配布されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 体育科はもちろんのこと幼児教育保育科においても「幼児体育に秀でた」保育者の育成を目指し、建学の精神である「體育富強之基」が貫かれている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館は、日本体育図書館協議会の代表幹事館であり、日本の体育・スポーツ専門図書館としての中心的役割を担っている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- クラブごとの練習場や部室が整備されており、学生の満足度を高めるように工夫されている。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 科学研究費補助金については、過去 3 年間に 8 件の申請で 3 件採択されており、外部研究資金の調達は順調に実績をあげている。
- 学内においては平成 19 年度より「日本体育大学学術研究補助費」制度が整備され、若手教員の研究活動に対して特に手厚い支援体制が整っている。この制度で過去 2 件が採択されている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- 研究目的による海外出張や研修のほか、体育大学という特性上、国際大会への海外派遣が多い。また、高大連携については、教育交流により相互の教育内容等の理解を深めることと中等・高等教育の活性化を目的に、併設大学と合同で五つの中学校・高等学校と協定を締結して、要望に応じて教員が出張授業を行っている。
- ボランティア活動として学生の「クリーン清掃活動」は地域住民からも感謝されており、更なる活動の活発化を図っている。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 併設大学との合同教授会について、実態にあわせた規程の見直しが望まれる。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は「體育富強之基」を建学の精神としている。この建学の精神を継承し発展させていくために、平成 17 年 11 月の教授会において、「真に豊かな国家・社会を実現するためには、体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を数多く育成することが肝要である」とその現代的な解釈を定めている。この教育理念は、体育科とともに幼児教育保育科にも貫かれている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は、保健体育・スポーツと保育・幼児教育を専門とする職業や、実際生活に必要な能力を育成する教育目的を反映したものになっている。体育教育に特化した短期大学として専門教育と教養教育を担うに十分な内容を整え、体育科はもちろんのこと幼児教育保育科においても「幼児体育に秀でた」保育者を目指し、建学の精神が貫かれている。

平成 20 年度に設置された「短期大学部カリキュラム検討委員会」において教育課程の見直しを行い、平成 21 年度に「短期大学部 2010 カリキュラム」がまとめられた。「短期大学部 2010 カリキュラム」では学生のニーズにこたえられるよう「基礎教養ゼミナール」を初め、社会人基礎力を養う科目を新たに編成している。

授業内容、教育方法、評価方法はシラバスに明記され学生に示されている。履修方法についても、各オリエンテーション時に「履修申告の手引」等を使用してきめ細かな指導を行っている。また、学生による授業評価アンケートを実施し学生の意見を反映させ、学生が積極的に参加できるように授業内容の工夫、教育方法、評価方法の改

善に努めている。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は、専任教員の年齢構成に偏りはあるものの短期大学設置基準を十分満たす人数が配置されている。教員の採用・昇任は、教員選考規則等に基づき決定している。

教育環境は、短期大学設置基準を上回る校地面積で、施設設備は体育教育を中心にした学びの場として十分な環境が整い活用されている。図書館は再開発によって十分な広さが確保され、蔵書、閲覧環境等は適切に整備されている。

併設大学と共有の体育施設は、特に武道系の施設等に特色を持ったスポーツ施設として整備されている。また、安全性と障がい者に配慮した教育環境が整えられている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教養教育科目・専門教育科目とも、必修科目では90～100パーセントの学生が合格点を取り、単位を修得している。当該年度で単位未修得になると次年度の取り直しが困難であるため、学期末テストのほか、授業内での小テスト、レポート、面接テスト、ノート提出等によって学生の学習活動を促すなど、きめ細かい評価方法を取っている。

卒業生に対して卒業後のアンケートは実施していないが、同窓会、保護者会組織との連携によって、就職研修会が各都道府県で開催されている。研修は、当該短期大学卒業生による学生時代の就職活動体験談、試験対策の勉強方法などについて行われている。卒業生については、体育・スポーツの実践を通して身に付けた行動力・実践力・集中力・粘り強さ、クラブ活動や各種の集団活動などで培われた礼儀・マナーなどの評価が高い。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学・教育・進路支援などの学生支援が十分に行われている。入学志願者につながるオープンキャンパス、高等学校側からの要請による進学説明会等を開催している。入学時にオリエンテーションを行っている。また、学業上の相談を中心とした学生相談に対応するアカデミックアドバイザー制度を導入している。さらに、当該短期大学の学生としての自覚を持って、学業やスポーツに専念し、将来の目標に向かってスタートができるよう、新入生オリエンテーションや1年次の7月に実施される体験学習などを新入生導入教育プログラムとして、組織的な支援を展開している。

また、基礎学力不足の学生に対応するために、「短期大学部2010カリキュラム」において、1年次の前学期に「基礎教養ゼミナールⅠ」、後学期に「基礎教養ゼミナールⅡ」を開設している。また、学習意欲の向上をねらって、卒業時には学業成績等優秀学生（学長賞、石橋賞、学友会長賞、理事長賞）など、他の模範となる学生を対象とした表彰も行うなど組織的に取り組んでいる。キャンパス内には休息のための施設・

空間、健康管理センター、食堂、売店、図書室、自習室などが多く設けられ、クラブごとの練習場や部室の設備などユニークな施設設備も多く、学生の満足度を高めるように工夫されている。

#### 評価領域VI 研究

教員の研究活動は、恵まれた研究環境の中で成果をあげている。教員は『日本体育大学紀要』、併設大学研究所雑誌等、発表の機会が設けられているほか、各個人の研究活動は数年ごとに発行される『教員総覧』で公開されている。科学研究費補助金は、過去3年間に8件の申請で3件採択されており、外部研究資金の獲得は順調に実績をあげている。

平成19年度には日本体育大学学術研究補助費制度を整備し、教員の研究活動を奨励している。研究費、研究旅費とも十分に確保されている。研究日は週1日設けられているほか、規程によって学外研修の機会も確保されている。

#### 評価領域VII 社会的活動

「日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部地域・社会貢献活動の基本方針」は「日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部による教育研究の成果等を広く開放し、地域に密着した貢献活動及び調査、企画を行うとともに、地域社会との連携・交流をつうじて、教育、スポーツ、学術の振興に寄与し、もって本学の教育・研究の活性化を図るものとする」としている。さらにその活動方針として10項目を定めている。地域・社会貢献推進委員会を設置して、5年間の基本計画を策定するなど、全学的に教職員と学生が取り組んでいる。

世田谷区教育委員会及びNPO法人地域型スポーツクラブスポルテ目黒と協定や覚書を締結し、授業の補助、クラブ活動の補助、運動会の補助、遠足の引率など多岐にわたる活動を展開している。さらにボランティア活動として学生の「クリーン清掃活動」などを実施し、地域住民からも感謝されている。

教職員は、研究目的による海外出張や研修のほか、体育大学という特性を生かし、多くの国際大会に参加している。

#### 評価領域VIII 管理運営

学校法人の管理運営面の意思決定は理事会が適切に行っており、管理運営の重要事項については評議員会の意見を聞き、教学に関する重要事項については教授会の審議結果を尊重した上で、審議決定を行っている。また、教授会の意向が十分に反映できるように、学長及び副学長は理事として選任されており、教学側の意向が経営に反映できる体制となっている。管理部門と教学部門との連携体制が確立されている。しかし、併設大学と行っている合同教授会については、実態にあわせた規程の見直しが望まれる。



#### 評価領域Ⅸ 財務

財務運営は諸規程に従って、予算の決定、執行、出納業務などが適切に行われている。東京・世田谷キャンパス再開発について3期にわたる工事を計画し、平成23年11月の竣工を目指して施設設備の充実が図られている。過去3ヶ年について短期大学部門の収支バランスに課題があるが、学校法人全体においては収入超過であり、余裕資金も有しており、財務体質は健全である。施設整備と管理は、施設設備等の管理に関する諸規程に基づいて、①火災等の災害対策、②防犯対策、③学生、教職員の避難訓練等の対策、④コンピュータのセキュリティ対策などを講じている。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価は、その内容や組織及び関連する委員会などについて、学則に規定し、全学的な組織としてその活動に取り組んでいる。自己点検・評価委員会がこの活動結果を報告書としてまとめるとともに、全専任教員、事務局各課に配布され、情報の共有化に努めている。また、学生生活に関するまとめや年度ごとの授業評価アンケートの集計結果も冊子としてまとめられ、教職員による情報の共有が図られている。